

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772001745		
法人名	(株)ユニマットそよ風		
事業所名	あびこケアセンターそよ風		
所在地	〒558-0013 大阪市住吉区我孫子東3丁目3番11番		
自己評価作成日	平成25年3月28日	評価結果市町村受理日	平成25年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成25年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の希望があった場合は、医療機関と連携しながらターミナルケアを実施する</li> <li>・利用者が楽しみにしている外食レクや散歩等、外に向けてのレクを実施し気分転換を計り、開放感を感じてもらえる様な雰囲気作りを心掛けている</li> <li>・利用者が四季を感じて頂ける様、季節に応じた行事や季節の食材を取り入れる様心掛ける</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>38年の歴史を有する臨床検査研究所の介護部門として設立された(株)ユニマットそよ風は、デイサービス・グループホーム・ショートステイ・居宅介護・福祉用具のレンタル・有料老人ホームなど235の拠点に580の事業所を全国に展開している。あびこケアセンターそよ風は、それらの事業所の内の一つで平成18年3月に設立した。「年を重ねても自由に自然に楽しく暮らしたい」という利用者の想いに応えるために様々なサービスを提供している。コンセプトは「医」「食」「住」「遊」+「学」という。「食」は、見た目の彩りと味にもこだわっている。管理者が調理師の資格まで取って関わっている。そして「学」は「そよ風」独自のカルチャースクールである。職員が講師となって書道、お茶、お花、園芸や音楽療法まである。心の通った介護が此処にはある。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームでの信念として「共に生きる」を掲げており地域との交流も含むとされている。職員はそれを理解し地域の保育所の運動会に行ったり、クリスマス会に来てもらい楽しく歌を唄ったり話をしたり等取り組んでいる	「地域の信頼を育み、共に生きる」と、事業所独自の理念を作りあげ、東ユニットと西ユニットの間のエレベーターホールに掲示している。管理者及び職員は、日々その理念を確認しながら共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・食事レクとして月に数回寿司屋お好み焼き屋等、色々なお店に行って食事やお茶を飲んだりしている ・貸農園にて芋掘りを行っている	自治会に加入して地域の行事に参加したり、毎日の散歩や買い物、ふれあい喫茶で近隣の方々と話しをするなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に出かけ、近所の方と会った時等、日々の暮らしぶりや身近な出来事を話されたり、時には手作りの採れたて野菜や花を頂いたりする事もある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事内容や事故報告書等の報告だけで、終わる事が無い様に合同レクの日に開催し、利用者様の様子を御家族様に見てもらえる様心掛け、地域で活用出来る情報が出た場合レクレーションに取り入れている	衣羅ネットワーク委員や民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員等で構成されほぼ隔月で開催されている。会議では事業所からの報告の他、参加者から質問や意見、要望を受け双方向で行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の家庭訪問時、色々な相談をして意見を頂いている	区役所、保健福祉課の職員が定期的に訪問しているので、訪問時に事業所の実情を伝えながら意見を受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族の同意を頂いた「やむを得ないケース」でも時間を決める等、出来るだけ拘束無しで行ける様努めている	1階玄関は安全のため施錠されているが、グループホームのユニット間は自由に行き来できるようになっている。従って、閉塞感はありません。個人情報、事務所の書棚に施錠して保管されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一回の勉強会や外部での研修を受講する事で、互いに再確認し、それに基づいて介助を行う様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会・書籍などを利用して理解し、活用出来る様心掛けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時間は、十分に取り、理解納得してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や要望を出せる環境作りを行い、ご家族には、面会時に生活記録を見て頂き、疑問や要望を聞く様にしており、家族会を設け意見交換を行っている	利用者や家族等とは、日頃の会話や様子の中から、また、運営推進会議や家族会の中から、外出に関する事、レクリエーションに関する事等意見・要望等を聞き出し運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用し、意見や提案を取り入れる様にし、会議にて意見の交換を行っている	管理者やユニットリーダーは、定期的に行われる職場会議や個別面談により、利用者との対応の問題やシフトの問題など、さまざまな意見交換を行い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約満了前に一人ひとり面談を行い、意見を聞き出来る事は取り入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は、自由に閲覧出来る様にしている、実際スタッフは、研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市社会福祉研修・情報センターの研修に、積極的に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に利用者、利用者のご家族と面談をし、暮らしぶり等の聞き取りを行い、入所されてからも出来るだけ、今まで通りの生活が送れ不安が軽減出来る様、心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面接時にご家族の思いを聞いたり意見や要望を取り入れたケアプランを作成する様にしている ・家族会では、ご家族とコミュニケーションを計る様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを導入する前に、ご家族に確認を取り、本人にとって的確なサービスかを、再確認する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのADLにあわせた、お手伝いを一緒にする事で、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日・個別レクリエーション等への参加を促し、触れ合う時間を大切に頂く事で、ご家族からの協力をお願い出来る関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知が進み馴染みの人や場所を覚えている人が少なくなっているが、ご家族の情報や希望・趣味を考慮し、カラオケや買い物に行く等支援している	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、ふれあい喫茶へ出向いたり、馴染みの人や場所への訪問を家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を理解した上で、利用者同士が円満な関わりが持てる様支援し、居室等に長時間居る事の無い様に声かけを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状、暑中見舞いで報告を聞く様になっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の、希望意向に添える様に、努めている	毎日の関わりの中から、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、書道、生け花、お茶など趣味の手伝いをしたり、外食に出かけていくなど、出来る限り希望にそった支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から聞き取りを行い、その情報やセンター方式を活用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時の際、特変の無い方でも声かけを行う等、職員同士での情報交換を密にする事で一人ひとりの現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、担当者会議を開き、主治医や家族の意見要望を聞き、それらを反映したケアプランを作成している	介護計画の期間は一応長期計画を6ヶ月短期を3ヶ月としているが、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、変化が起きた時にはそのつど臨機応変に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りノートを活用把握する事で、スタッフ間での情報を共有し、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の場としての安全を第一に考慮し、外出レクや個別レク等といったニーズに合わせ、職員の増員を行う等出来る限り柔軟な対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園への訪問やボランティアによる音楽演奏や人形劇・フラダンス等、とても楽しみにされ、喜んで参加されている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人ご家族が希望するかかりつけ医により週一度訪問受診があり、必要があれば希望の病院を受診している	本人や家族等と相談しながら、出来るだけ事業所の協力医をかかりつけ医として往診して貰うようにしている。しかし、今までのかかりつけ医の受診も家族等と相談しながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度、かかりつけ医からの訪問看護があり、日中はディ・ショート・ナースの協力により、日常の利用者の健康管理に留意している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、ケースワーカーと密に連絡を取り、一日も早く退院出来る様努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や状態に変化があった場合は、その都度身体の状態によって医師やご家族との連携を取り方針を決定している	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所における対応に係る指針を作成し、入居時に十分な説明をし、早い段階から対応方法や方針を共有している。また、重度化した場合には、その都度話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変によりターミナルを迎えた方が、数名おられ実践を通して、経験し実践に生かしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の消防訓練を実施し消防署の全面的な協力体制の下、非常時に備えている ・地震については、全体会議等で職員全員で研修を行い勉強している	年2回、消火器の使い方や夜間を想定した避難訓練を利用者と共に行っている。食料や飲料水など災害に備えた備品の準備も出来ている。しかし地域の方々との協力体制までは確立されていない。	近隣の方々には運営推進会議に参加して頂くだけでなく、避難訓練にも協力して頂き、避難してきた利用者の見守りをお願いする等、協力体制の確立が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応の仕方には、常に注意を払う様指導している	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、目立たずさりげない言葉掛けや介助が見られる。個人ファイルも事務所の書棚に施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から、気づきを大切にして利用者の仕草・表情等どんな小さな事でも見逃さない様心掛け、利用者の思いに対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気や入居者等の体調によりレクリエーションスケジュールを決めているが本人のペースで参加して頂く様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のADLに応じて、朝のモーニングケア時に自ら整髪してもらったり、洋服を選んで頂ける様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や記念日等では、好きな物を聞きメニューを決めたり、出来る利用者には調理の準備を手伝ってもらったり、食器を拭いてもらったりしている	食材は法人でまとめ買い調達したものを中心にして、菜園で採れた野菜を加えてアレンジし提供している。職員と利用者が共に楽しそうに語りながらの食事風景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス・水分量を記録に残す事で把握し、一人ひとりに合った食事形態で提供出来る様に支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診歯科より指導を受け、その人に合った歯磨きや歯間ブラシ等を使用し、出来る方はご本人で行って頂き、困難な方には介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し利用者の排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレを促したり指導を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを職員は把握して、あからさまな誘導ではなく、さりげなく誘導をし、排泄の自立に向けた支援をしている。昼間のオムツ使用はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや玄米を使用したり、ヨーグルト等の食材を取り入れたり、適度な運動を行ったりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤や落ち着いた環境を整え、入浴が楽しいと思ってくれる様にしている	火・木・土・日とある程度の入浴日は決めているが、希望する利用者には何時でも入浴できるよう、一人ひとりの希望に添った支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温や寝具の状態等の環境整備を整え、特に就寝前は落ち着いて頂ける様、声掛けを行う等して安心して気持ちよく眠れる様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンス等で理解を深め、ケアプランにも上げた上で、服薬の支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞やパンを取りに行ったり、歌の時間を優先して取ったり、近所の観音様にお参りをしてもらったりして気分転換を計ってもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体機能が低下されている利用者様も車椅子を使用する事で、散歩に行く事が出来、地域のお好み屋やお寿司屋に行き喜ばれている	利用者一人ひとりのその日の希望に添って、事業所周辺を散歩したり、買い物に出掛けたり、少人数で外食に出掛ける他、時には大泉公園や住吉大社などへ家族の協力を得ながら日常的な外出の支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で金銭管理をする事で安心される方は所持されている。、出来ない方に関しては事務所で預かっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が納得されている場合は、スタッフが援助し電話をかける事もある。また年賀状にご家族に宛てた文章を書いて頂き送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダに季節を感じさせてくれる植物や菜園・花等を植えたり、壁に季節に合った貼り絵等を貼ったりと季節を感じてもらえる様工夫している	明るい台所の対面キッチンで繋がったリビングは、食事作りの音や匂いに満ち生活感が漂っている。 壁には職員や利用者の作った季節の飾り付けや利用者の書道作品などが掲示され、居心地よく過ごせるような工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、全員がくつろげる事が出来、廊下の奥にもソファを置いてお茶を飲んだりCDを聞いたりして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ馴染みのある家具を入れて頂く様お願いし、精神的に少しでも落ち着ける空間作りに努めている	居室の入り口に利用者の書いた表札があり、また、居室には利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれているなど、その人らしく過ごせるための工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に手すりが設置されており、通路も広く動き易い。居室の入り口やトイレには大きく表示されていて解り易くしている		